

# 「水辺の小さな自然再生」事例紹介

記入年月 2018年12月

都道府県名	島根県		河川名	静間川		
事例タイトル	水辺のこわざによる天然アユ復活プロジェクト					
写真						
水系名/河川名	静間川水系/静間川		場所	島根県大田市		
位置情報 (緯度経度)	35.181994, 132.475047		活動開始年	2012年		
活動概要 (経緯・目的等)	<p>NPO法人緑と水の連絡会議においては、静間川においてアユが大きく減少したことを危惧し、2012年からアユの生息状況調査を始めた。その結果、静間川には多くの構造物があり、特に中流域の当該堰が、アユの遡上において大きな障害となっていることが分かった。そこで、2016年に、当該堰の機能しなくなっていた魚道を、水辺のこわざの手法を用いて改修した。</p> <p>この取り組み以外にも、地元小学校と連携した川での体験活動、生き物観察会、木製箱型簡易魚道の設置、簡易魚道設置実験への協力、昔の川の様子を書き留める（聞き書き）などの活動を行っている。</p>					
再生の手法	簡易魚道	○	簡易水制 (巨石・ブツク)	パープ工 (上向き水制)	石倉かご・竹蛇籠	植生ロール・ポット
	魚道改良	○	たまり・わんど造成	河床攪乱	その他 (記述)	
実施体制 (活動の担い手)	市民・市民団体	○	河川管理者 (国)	河川管理者 (都道府県)	河川管理者 (市町村)	河川管理者以外の地元自治体
	大学・研究機関		学校 (小中高)	企業	その他 (記述)	
工夫した点	<ul style="list-style-type: none"> <li>「水辺のこわざ」の手法を応用し、比較的容易な方法で、既設魚道の改修を行った。</li> <li>資材となる石についても、イベント的に収集した。</li> <li>行政や用水組合などの関係者に、趣旨を理解してもらい、スムーズな事前準備ができた。</li> <li>クラウドファンディングを活用し、資金の目標額を確保した。</li> <li>新聞、テレビなどには、積極的な取材をお願いした。</li> </ul>					
今後の課題	<ul style="list-style-type: none"> <li>改修はしたが、十分ではない。改修部分の更なる改良なども今後検討が必要となる可能性がある。</li> <li>アユ資源の復活には至っておらず、継続的な調査や他の箇所の魚道整備なども行う必要がある。</li> <li>アユ以外の生物についての、取り組みの拡大。</li> <li>取り組みについての、認知度はまだ十分でない。更なる、協力者の確保や、子どもたちに知ってもらう機会の確保が必要である。</li> </ul>					
効果 (直接的な効果・間接的な効果)	<ul style="list-style-type: none"> <li>この堰から上流においても、再びアユの生息が確認されるようになった。</li> <li>多くのメディアに取り上げられたこと、また、インターネットを活用したクラウドファンディングという手法を用いたことで、地元はもとより、県外までの多くの人に、静間川のことやこのような取り組みをやっていることを知っていただくことができた。</li> <li>静間川での象徴的な取り組みとなり、同河川内の他の箇所でも、魚道設置につなげていきやすくなった。</li> <li>行政や漁協ではなく、NPOが行ったという事例は少なく、モデル的な取り組みになるのではないかと期待されている。</li> </ul>					
関連URL等	<a href="https://readyfor.jp/projects/ayu">https://readyfor.jp/projects/ayu</a>					